

学びのアイデア

—こんな風に学んだら!—



「学問の種」を蒔く

みなさんは、どんなことに興味があるのでしょうか？音楽を聴いたり、映画を観賞したり、東京デイズニールンDで遊んだり、ファッション雑誌をバラバラめくったり、デパートでショッピングしたり。この世は楽しいことに溢れているから、いろんなことに興味を持っていいのでは？「学問の種」は、そんなところに隠れています。みなさんの興味があることに、たくさん「学問の種」があるのです。

どうすれば、その種を見つけることができるのでしょうか？まずは、自分の選んだもの・ことを思い浮かべてみます。たとえば、「スパイダーマン3」という映画を見たことでしょうか。この作品は、ソニー・ピクチャーズが、映画史上最高の3億ドル(約358億円)の製作費を投入して作り、2億ドル(約239億円)の広告宣伝費を使って(合計5億ドル＝約597億円)、2007年5月5日に世界同時公開(日本のみ5月1日に先行公開)されました。ここから、①なぜ600億円近くも製作費・広告宣伝費がかかるのだろうか？②なぜ世界同時公開されたのだろうか？などなど、いくつもの「問い」が浮かんできます。この「問い」を発見することがとっても大切なのです。なぜなら、「問い」の発見こそが、「学問の種」を蒔くことにほかならないからです。音楽制作会社はCDの売り上げが低迷する中で、どのようにアーティストを発掘し、ヒットを飛ばそうとしているのだろうか？地方のテーマパークがたくさん破綻しているのに、東京デイズニールンDがリピーターを獲得できるのはなぜだろうか？ファッション雑誌はどうしてあんなに分厚いのだろうか？デパートの1階に海外の有名ブランドの店が並ぶようになったのはなぜだろうか？自分の興味の対象に、知的好奇心をもって向き合つと、「きつ」と「問い」を見つけて出すことができると思います。

学問の種を蒔いて、水をやろう!

「学問の種」に水をやる

せっかく種を蒔いたのだから、次は、水をあげましょう。「水をやる」というのは、情報を集めて、答えを探すプロセスです。たとえば、「スパイダーマン3」が、②なぜ世界同時公開されたのだろうか？という問いについて、少し情報を集めると次のような事情が分かってきます。日本でハリウッド作品を公開する場合、本当は先にアメリカで公開し、全米興行収入ナンバーワンみたいな実績を作ってからの方が良いのだそうです。だけど、最近、劇場内で撮影し、それをDVDにして安く売る「海賊版」がすぐに出荷してしまうため、その対策として世界同時公開を増やしている、と。そして、「海賊版」について、さらに情報を集めてみると、「海賊版」は、何も映画のDVDに限られたものではなくて、音楽のCDや海外有名ブランドのバッグや時計など、いろんな分野で問題になっていることが分かってくるでしょう。大切なのは、水をあげると同時に、自分の知的好奇心を少し刺激して、新しい種を蒔くことです。なぜいろいろな海賊版が世界中に出回っているのだろうか？海賊版は、映画会社にどのような問題を突きつけたのだろうか？映画会社は、海賊版の問題にどのように取り組んでいるだろうか？などなど。

「学問の種」に水をやる＝ある問いの答えを探すことは、新たな種を蒔く＝新しい問いを発見することに繋がるのです。そして、また答えを探し、新しい問いを見つけて、その答えを探して……このプロセスを繰り返していけば、大学生活の中心で「学問の花」を咲かせることができるでしょう。

加藤 健太

KENTA KATO

経済学部講師

1971年生まれ。専門は近現代日本経営史。「戦前期日本経営史」、「戦後日本経営史」、「外国経営史」を担当。好きなものはONE PIECEと鋼の錬金術師とBLACK LAGOON。

